

**製品名: CAS ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07936**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000,IP 1:20-1:50
分子量	110kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CSE1L
別名	CSE1L; CAS; XPO2; Exportin-2; Exp2; Cellular apoptosis susceptibility protein; Chromosome segregation 1-like protein; Importin-alpha re-exporter
遺伝子 ID	1434.0
SwissProt ID	P55060
免疫原	抗血清はヒト CSE1L 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

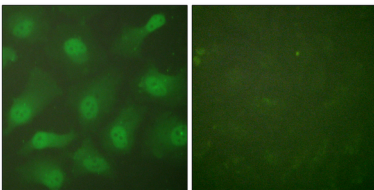
核局在シグナル (NLS) を担うタンパク質は、インポーチン  $\alpha/\beta$  ヘテロ二量体によって核内へ輸送される。インポーチン  $\alpha$  は NLS に

結合し、インポーチン  $\beta$  は核膜孔複合体を介した核内移行を媒介する。核内移行後、RanGTP はインポーチン  $\beta$  に結合し、インポーチン  $\alpha$  を置換する。インポーチン  $\alpha$  は細胞質へ戻され、NLS タンパク質は残される。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、NLS が結合していないインポーチン  $\alpha$  に強く結合し、この結合は RANBP1 と RANGAP1 の複合作用によって細胞質内で解除される。さらに、コードされるタンパク質は、アポトーシスと細胞増殖の両方において役割を果たしている可能性がある。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2012年1月],function: インポーチン  $\alpha$  の輸出受容体。インポーチン  $\alpha$  の核から細胞質への再輸送を媒介します。これは、輸送基質（貨物）が核質に放出された後に行われます。核内では、インポーチン  $\alpha$  と活性型 GTP 結合型 GTPase Ran に協調的に結合します。この三量体複合体は、核膜孔複合体 (NPC) へのドッキングを、ヌクレオポリンへの結合を介して媒介されます。核輸送複合体が細胞質へ輸送されると、複合体の分解と Ran-GTP から Ran-GDP への加水分解（それぞれ RANBP1 と RANGAP1 によって誘導）により、輸送受容体からインポーチン  $\alpha$  が放出されます。その後、CSE1L/XPO2 は核内に戻り、次の輸送サイクルを媒介します。核外輸送の方向性は、GTP 結合型および GDP 結合型の Ran が細胞質と核の間で非対称に分布することによってもたらされると考えられています。類似性: XPO2/CSE1 ファミリーに属します。類似性: インポーチン N 末端ドメインを 1 つ含みます。細胞内局在: 核と細胞質の間を往復します。サブユニット: CSE1L/XPO2、Ran、KPNA2 との複合体として存在します。RanGTP 存在下でのみ、インポーチン  $\alpha$  に高い親和性で結合します。この複合体は、RanBP1 と RanGAP1 の複合作用によって解離します。組織特異性: 増殖細胞で高発現します。、

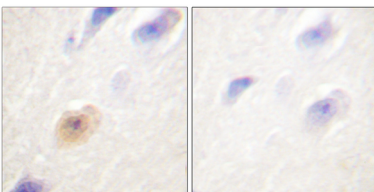
## 研究分野

細胞生物学

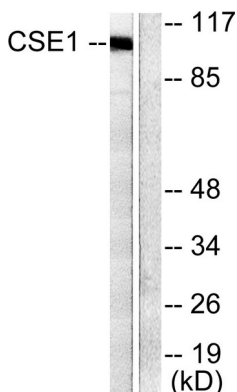
## 画像データ



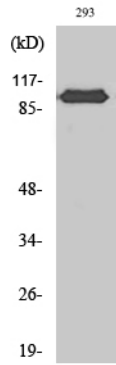
CSE1L 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



CSE1L 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CSE1L 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した CAS ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析